

私のひとこと

町議会傍聴記



私は諏訪市に暮らす42歳の者です、このたび議会を傍聴する機会をいただきました。仕事から、私は富士見にはよく足を運ぶのですが、議場に行くのは、初めての経験です。

議場は明るい雰囲気、大きな窓からは緑豊かな景色が広がっていました。プザーが鳴り厳粛な雰囲気の中、一般質問が開始され、議員さんと町長さんのやり取りが始まりました。

いずれも富士見の将来を思う議論をお聞きし、私自身あらためて近隣の町を考える機会となりました。

近年、諏訪地方も、住民の生活圏域の一体化に伴い、市町村合併に対する模索が

行政を中心に行われ、その行方にも多くの市民が関心をよせています。しかし、互いの地域行政の実情を、住民一人ひとりが理解するまでには至らないのが現実であると感じます。

二十一世紀に入り、厳しい経済状況に諏訪地方も覆われています。いま私たち住民は、それぞれの地域のよさを互いに認め合い、そのよさを尊重し、将来に向けて発展させる義務があるのではないのでしょうか。

大正九年に旧制諏訪中学校の教諭となり様々な足跡を残した三沢勝衛先生の風土産業論の一説に「風土は大自然である。大地の表面と大気の底面との接触からなる一大合体である。

この風土に正しく生きる事の出来る人によつてのみ、初めて真にその風土が生かし得るのである」と書かれた詩があります。元々風土というものは大自然そのものであり、自然に善悪はありませんそれを善とするのも悪とするのも人間の心構えであると教えておられます。議員の皆さんの更なるご活躍を期待いたします。

(宮坂 守)

新しく選出された議員による最初の議会を初めて傍聴しました。いま、町村合併・住基ネットと重大な問題を抱えて居ます。新しい議員や町長の考えを知りたいと思えました。住民投票を控え、色んな情報を集め正しい判断をする参考になればと思えました。全部の質疑応答を聞いたのではありませんが、それぞれに真面目に答えようとする姿勢が見えて、その限りにおいては好感が持てました。

合併について、町長は今までは考えを言わないとのことだったので、分からないが、いま判断を誤ったらこれから先、子々孫々に禍根を残すことなので、一人ひとり良く考えねばと思います。

住基ネットについても同じで、富士見町にとつて今戦後一番の重大な分かれ道に立っていると思われまます。やはり生の声を聞き、真摯な姿を見るのはとても大切だと実感しました。もつと大勢の町民が傍聴して欲しいです。議場の案内など町民の目線で考えれば、もっと傍聴者が増えるのではないのでしょうか。

(名取好枝子)



米の豊作を願う伝統行事 “虫送り” 先達地区

■編集後記■

昭和30年4月の合併による富士見町の誕生から数え、401回目の町議会を、今回、改選議員が初定例議会として迎えた。

いま、町の最大の課題は六市町村合併問題であり、各議員は研修・研鑽を積み重ねている。3千2百ある市町村を1千まで減らすのが政府の方針であり、その目的は、行財政の改革である。財政の根幹を揺るがす少子高齢化については「避けることができない」と捉えることが必要で、その最も効果的な方法が、市町村合併であるようだ。

ただし町民の関心は今ひとつ盛り上がり欠ける。裏を返せば合併に魅力がないのか、それとも合併を前

提としたような説明に不信感を募らせているのか。議会は行政と一体となつて、町民に合併の可否についての判断材料を用意する必要がありそうだ。説明会を、9月から11月にかけて行い、住民投票を、12月に行う予定で進んでいる。

この住民投票の成立に必要な、有資格者の2分の1以上の投票が得られることを願うばかりである。

(平出高博)

【編集委員】

- 編集委員長 小林 光
- 副委員長 平出 高博
- 委員 小林 市子
- 委員 エンジェル 千代子
- 委員 小池 久長
- 委員 遠藤 正紘

No. 85

2003年8月1日発行

発行 長野県富士見町議会

編集 議会広報編集委員会

電話 0266-62-9403

〒 399-0292

印刷 (有) 高原堂印刷所